

会 長 あ い さ つ

国際理解教育を組織を通して

茨城県からの在外教育施設への派遣数は、東京や大阪などの大都市を除くと、全国でもトップクラスになってきました。それは、県教育委員会の理解と本県からの派遣教師の勤務のすばらしさからきていると思います。昨年より、県北、水戸、県東、県南、県西の支部が定着し、県教育委員会とも連携を深めているところです。以前は、在外施設への派遣教師は、少し変

茨城県海外子女教育・国際理解教育研究会
会長 大塚 雅夫

わった外国に目が向いてる人という見方が強くありました。帰国して学校に戻ると、海外の経験を話す場があまりなく、貴重な体験を生かすことができなかつたら残念です。

今こそ、国際理解教育が大切なときです。茨海研の組織を生かし、お互いに励ましあい、協力し合って茨城県の教育の発展に貢献していきましょう。

昨年度帰国された先生方からのお便り

ヨハネスブルグ日本人学校の勤務を終えて

前ヨハネスブルグ日本人学校
水戸市立稲荷第一小学校 根本 克

1 南アフリカ共和国理解について

(1) 歴史について

南アフリカ共和国（以後南ア）といえ、ついで10数年前まで国際的批判のあった「アパルトヘイト」を法律によって正当化していた国です。ヨーロッパ系民族（白人）がアフリカの地でアフリカ系民族（黒人）を差別していました。皆さんもご存じの通り徹底した差別政策を展開していました。この「差別の発端は何か」の部分から触れたいと思います。

アフリカ南部は19世紀後半、金鉱が発見されるとゴールドラッシュに湧きました。入植者が増え、街（ヨハネスブルグ市南部）は金鉱労働者であふれていました。そんな中で、登場したのが「プアーホワイト（貧乏な白人）」つまり、労働者としては黒人の方が役に立ったのです。

このプアーホワイトを救済するために白人に特権を与えたのがアパルトヘイトの始まりと言われていました。この極端な人種を隔離する政策は激しさを増し、反対する者

には徹底した制裁を加えていったのが、1960年代から1980年代です。この頃は、この政策に反対し、民族の自決を訴える者は囚われ、職業から結婚まですべて差別されていたわけです。民族運動が本格化したのは80年代後半、そして、非常事態宣言が出され、民族自決運動家のマンデラ氏が釈放され、この法制化が撤廃され、初の人種分け隔てのない総選挙が実現したのが、1994年です。現在、すべての人種、民族も共生するという「虹の国」の立国を目指しています。

南アを知るにはこの歴史的な背景は重要といえます。

(2) 民族について

アフリカ系民族といっても、民族は千差万別です。数えるだけでも、9民族があり9カ国が話されています。入植したオランダ系民族（アフリカーンス）イギリス系民族（英語）が加わり、現在、公用語は11カ国語あります。人口が一番多いのはズールー民族、初代大統領のマンデラ氏、二代目大統領のムベキ氏はコサ民族です。南ア国歌はこの11カ国語が上手に入った国歌になっています。

(3) 治安について

世界最高の犯罪都市「ヨハネスブルグ（ジ

ヨハネスブルグ)」という異名をもつほど、治安はよくありません。身近なところでも日本人学校に通学している保護者の方が拳銃を突きつけられて物を盗られるなどの犯罪被害にあうという話をしばしば耳にしています。南アは犯罪件数、殺人件数ともに、日本の約 50 倍とされています。例えば、日本では 100 人に 1 人が犯罪被害にあうとすれば、南アは 2 人に 1 人が犯罪被害にあっている単純計算です。本日本人学校(以後本校)でも 2006 年 9 月 13 日深夜に 5 分間という短時間にパソコン 3 台が図書室より盗難されるという事件が発生しました。幸い警備員等の生命の異常はありませんでした。しかし、盗難事件は日本と違い、生命を脅かすことがしばしばあります。(本校派遣教員も平成 5 年に殺害されています。)

治安の悪化の根本的な原因は、貧富の差の極端化、中央アフリカ諸国からの不法移民、不法滞在、犯罪グループの組織化などです。

また、次期大統領選が来年 2009 年に行われます。現ムベキ氏からズールー族出身のズーマ氏に変わろうとしています。今後は大統領選が近づくとつれ、なお一層の治安の悪化が心配されています。

(4) 資源について

南アは 150 年前程から資源が豊かな国として、世界中に知られました。金・ダイヤモンドをはじめ、石炭、ニッケル、マンガン、また、南アでしか採れない携帯電話等に使っているレアメタルの数々、現代の我々の生活に欠かすこと出来ない資源が現地の労働者によって採掘されています。

南アの主な工業の特色として、2 点あります。1 点は石炭を石油に変えているサソール(SASOL)という企業です。南アは石油資源がほとんどありません。アパルトヘイト時代に他国より厳しい経済制裁を受けていました。このことを背景に豊富に採れ、安価な石炭から石油(原油)を作り出す技術を開発しました。ここ数年、数ヶ月の原油高でこのサソールが注目されています。この企業は中国にも工場があります。2 点目は、硬貨の鑄造で有名な「SA ミント」という工場です。ニュージーランド、カナダをはじめとする全世界の 70 数カ国のコインを製造しています。

(5) 日本との関係について

現在南アにとって最大の貿易相手国は日本です。南アから日本に輸出されているものは 2004 年の統計では、日本への輸出品目 1 位は白金、2 位は自動車です。この自

動車の輸出は南アに、あるドイツ車の工場があり、ここから日本へ運ばれています。ですから、現在、日本で乗られているこのドイツ車のほとんどは南ア製です。また、日本の 2 社の自動車企業は南アに工場を持っています。

自動車以外の特色として、南アから日本に輸出されてもの、果実関係製品があります。現在日本で飲まれている果汁 100% ジュースは濃縮還元です。つまり、果実を凝縮させ、船便で運び、それを日本で還元して飲んでいきます。この濃縮還元技術の発達によってジュース関連の輸出が多いです。ジャムや優れたワインの製造、輸出もしています。

現在南アに住む日本人は約 1000 人とされています。

(6) ワールドカップ開催について

2010 年にサッカーワールドカップが開催されます。アフリカで初めてのイベントとなります。現在、スタジアムの建設(ヨハネスブルグ、ケープタウン、ダーバンが開催地)、周辺の道路の整備、地下鉄の建設が急ピッチで進められています。日本から見れば計画性のない建設ラッシュが続いています。それは、電力不足による、停電が頻繁に発生してしまうことです。これが、現在の南アの国民生活を脅かしています。安全にサッカーワールドカップが開催し、終了できることを祈っています。

2 ヨハネスブルグ日本人学校の特色について

(1) 教育課程について

「日本の教育課程はそのまま、現地公用語が英語なので、効果的な英語教育を」というのが本校の保護者の要望です。ということで、小学部 1 年生から中学部 3 年生まで(G1~G9)文科省が示している標準時数を絶対的に確保し、余剰時間を使って、英会話(EC)を全学年設けています。この時間は英会話講師 2 名による英会話レッスンを少人数でしています。もちろんこの時間内は日本語は一切通じません。20 分英会話が週 4 回、45 分英会話が週 1~2 時間。週 3 時間~4 時間は英会話確保されています。学校行事についてはほとんど日本の小・中学校と同様の行事を組んでいました。

(2) 国際交流について

本校から近くにある IR 校やセントステーション校と交流学習をしています。現地校へ行っては、ヨハネスブルグや南アの文化を、紹介してもらうことを、ペアーを組ん

で行いました。また、本校へ招いた時には、主に日本の文化を紹介しました。児童生徒は、進んで日頃の英会話力を試していました。

(3) 安全指導について

年4回の避難訓練の中で4月当初に行う訓練は「バスジャック訓練」です。これは、大使館、保護者、セキュリティー・ドライバーの協力のもと行います。「拳銃を持って発砲する犯罪グループにバスを乗っ取られた」ということを想定します。発砲音や現場を想定した声など緊迫感があります。もちろん、低学年の中には泣き出す子もいます。また、5月に行う避難訓練では治安の悪化に伴い、学校内に留まる訓練もします。想定は「犯行グループが学校の周りにので、校舎内に留まって様子を見る」という訓練です。緊急時に備え、児童・生徒・職員・スタッフが大金庫の中に入り、外部との連絡を取るというものです。金庫内には常時1日分の食料と水が確保されています。

ブラッセル日本人学校での勤務を終えて

稲敷市立江戸崎小学校 教諭 橋本 慎一郎

1 ベルギーについて

(1) ベルギーの国土と気候

ベルギーの国土は、東経2～7度、北緯42～52度に位置している。面積は3万平方キロメートルである。

面積は3万平方キロメートルである。国土は関東地方ぐらいの大きさしかなく、日本の面積の12分の1である。

面積は3万平方キロメートルである。国土は関東地方ぐらいの大きさしかなく、日本の面積の12分の1である。北海道よりかなり北に位置しているが、冬の気温は北大西洋海流の影響でそれほど厳しくはない。冬の降雪はあるが、積もることはまれである。夏は30℃を超える日が1週間程度続くぐらいである。よって、家庭や学校にはエアコンはなく、スーパーやデパートだけである。ベルギーの最高点は海拔693mで、大変なだらかな土地である。偏西風の影響で降水量も年間を通じてほぼ平均している。終日、雨が降り続くということはまれで、1日のうちにめまぐるしく天気が変わることが多い。また、高緯度であるため、日照時間の較差があり、夏は16時間、冬が8時間程度である。夏が近づいてくると日が長くなり、22時を過ぎても明るい。

(3月末から10月にかけてサマータイムが導入されている。)冬は9時ごろまで暗く、16時を過ぎれば真っ暗である。そのため、現地の人々は日光を大切にしている意識が生活の中であらうかがわれる。5月から8月にかけて、少しでも晴れると公園で水着になって日光浴をしていることである。

(2) ベルギーの位置関係

首都ブリュッセルを中心に東京・名古屋間にあたる約500km以内には、フランスやオランダ、ルクセンブルグ、ドイツといった国が入っている。

車で1時間走ると、国境を越えてしまう環境にある。EU圏の国々は、国境は看板があるだけで自由に入出入りができる。こうした意味で、ベルギーはヨーロッパの首都といわれている。近年ヨーロッパの国々はEU(欧州連合)として、政治や経済以上の結びつきを強めている。そのEU本部もブリュッセルにあり、ベルギーは「ヨーロッパの十字路」と言われている。また、NATO(北大西洋条約機構)の本部もあることから西側先進諸国の重要な地として認識されていることがわかる。

この小さな国土でも10の州があり、独自の文化を形成している。実際には、行政単位の州意外にも3つの共同体と3つの地域が存在している。

① 3つの共同体

- ・オランダ語共同体(オランダ語を主に話す、オランダよりの北部)
- ・フランス語共同体(フランス語を主に話す、

国名	ベルギー王国
面積	32,519km ² (関東地方くらい)
時差	日本より8時間遅れ (4～10月の夏時間では-7時間)
人口	約1,026万人 (東京都くらい)
民族	フラマン(オランダ語話者) 58% ワロン(フランス語話者) 33% その他(ドイツ語話者など) 9%
言語	フランス語 オランダ語 ドイツ語(すべて公用語)
宗教	カトリック 75%
首都	ブリュッセル(約98万人)
独立	1830年 10月4日
政体	立憲君主制 連邦王国
元首	アルベール二世(第6代)
国会	二院制(上院・下院)
通貨	ユーロ(EU, Euro)



フランスよりの南部)

・ドイツ語共同体 (ドイツ語を主に話す, ドイツよりの東部国境付近)

② 3つの地域

- ・フラマン地域 (オランダ人が多く住む北部)
- ・ワロン地域 (フランス人が多く住む南部)
- ・ブリュッセル首都地域 (フラマン地域内にあり, ブリュッセル市と周辺にある18の自治体)

③ 3つの公用語 (フランス語, オランダ語, ドイツ語)

政治では, ベルギー連邦の政府・議会や各言語別の共同体政府・議会, 各地域別の政府・議会, 首都ブリュッセルの各地域政府・議会と複雑な関係と権限がある。そのため, フラマン地域とワロン地域の言語や文化による地域対立がたびたび起きている。近年は経済格差による対立が起きている。



(2) 多言語

ブリュッセル首都地域では街中の至るところにある看板は「フランス語」と「オランダ語」の併記が原則である。地名によっては, 3ヶ国語のスペルや読み方がまったく違うこともあり, 別の都市のように書かれていることもある。



例: Brussels (英語), Bruxelles (フランス語), Brussel (オランダ語), Brüssel (ドイツ語)

ブリュッセルという呼び方は, フランス語の発音からである。校名のブラッセル (The Japanese School of Brussels) は, 英語である。

(3) ベルギーの交通網

① 道路網

ヨーロッパは自動車社会である。高速道路網も非常に発達し, 充実している。日本と違い高速道路は無料で, 夜の外灯も大変明るく走りやすい道路が続いている。近隣の国の高速道路は, 外灯が全くないが夜にベルギーに戻って来ると突然明るくなる。高速道路に限らず, ベルギー国内は大変外灯が発達しており, 一般道路や細い路地までも街灯がついている。これらは, 夜間の原子力発電の余剰電力で点灯されている。また, 車は左ハンドルで右側通行である。信号又は標識・標示がある交差点等を除き, 進行方

向の右側から来る車両に優先権がある。市街地交差点以外に信号機はなく, ロータリーである。ロータリーでは右方優先の場合とロータリー内優先の場合がある。信号機に監視カメラがあり, 信号無視をしたりスピード違反をしたりすると, 後日自宅に違反事項確認書と罰金の請求が送付される。

② 鉄道網

高速鉄道が発達しており, タリスはブリュッセルミディ駅からパリノード駅まで2時間弱で結んでいる。また, 同じ駅から出ているユーロスターはロンドンまで3時間ほどで結んでいる。その他, TGVやICなどでオランダやドイツ, ルクセンブルグの都市も結ばれている。

③ 水運網

内陸にあるブリュッセルの街中にも大きな運河があり, 北海から北部のアントワープやブルージュなどは, 水路を利用して中世は綿織物のギルドが発達してきた。現在も国内の水路が発達しており, 高低差があっても, リフトで水位を変えて内陸まで船が出入りをしている。

④ 航空網

ベルギーには日本からの直行便がないが, ブリュッセル国際空港 (ザベンテム) からは, ヨーロッパ各地とアメリカ合衆国, 中近東まで幅広くカーバーをしている。

⑤ ブリュッセル市内の交通網

市内の公共交通は1.5ユーロ均一で, 1時間以内であれば同じチケットで乗ることができる。バスやトラムは



乗った後に, メトロは乗る前に刻印機で時刻を記入する。車掌がいるわけでもなく, キセルも可能であるが検札が多く, その場合は500ユーロの罰金になる。市営バスは本数もコースも多く, 大変便利である。ナイトバスも充実しており, 深夜も2ユーロで運転されている。メトロといわれる地下鉄は3路線ある。どの乗り物の車内でもベビーカーや車椅子の乗客がいると, すぐに近くにいる人たちが乗り降りを手伝ってくれるのが当たり前である。ベルギーは心のバリアフリーが定着している。

(4) 歴史と宗教

ベルギーは9世紀には封建諸侯がそれぞれの地域を治めていた。11世紀になりキリストの聖遺物を求めて十字軍の遠征が始まり, この第1回目の遠征の指揮をとったのは, 現在のベルギー南部にあるブイヨンのゴッド=ブロワ公であ

る。また、水運に恵まれ毛織物工業が発達し、ギルドなどの同業者組合の発達も有名である。14世紀以降フランスをはじめ列強の支配下に置かれ、度重なる戦争に翻弄された。19世紀、ナポレオンを失脚に追い込んだワーテルローの戦いの場は、ブリュッセル郊外にある。1931年にベルギーはオランダから独立した。第二次世界大戦では、早い時期にドイツに降伏したことで、首都には攻撃されずすんだ古い建物がたくさん残っている。南部にあるイーペルは、戦場となり毒ガスが使われ大変な惨禍に見舞われた。

ヨーロッパではキリスト教が全地域に行きわたり、祝日やお祭りもキリスト教なしには考えられない。ベルギー全体で、カトリックの信者が総人口の84%と多く、日曜日には、いくつもの教会の鐘の音を聞くことができる。ベルギー人の考え方の根底ではキリストの教えが守られ、毎日の生活の中には宗教が生きていることがわかる。一方、近年の若者はほとんど教会へ行かない者の方が多くなってきている。

EUの拡大において、国外からイスラム教徒が多数入ってきているが、排除という動きはなく、どの宗教も互いに認め合っている。

(5) その他

中世に栄えたベルギー各都市には、多くの歴史的な建造物や芸術性の高い絵画が残っている。14世紀から17世紀にかけては、ブリューゲルやファン・アイク、ルーベンスなどが活躍した。これらフランドル派の巨匠の作品は、ブリュッセルやアントワープ、アントワープ、アントワープ、アントワープなどの美術館や教会で鑑賞することができる。

文学では「青い鳥」の作者として知られるメーテルリンクや、推理小説「メグレ警部」シリーズのシムノンなどが知られている。この他に、15～16世紀にヒューマニストとして活躍した思想家エラスムスや航海技術の発達に寄与したメルカトル図法の考案者メルカトルなどが全世界的に有名である。

他にも、小数を発見したシモン・ステピンもベルギー人である。

ベルギーの特産品・食べ物として、ワッフル、チョコレート、ムール貝、フリッツ（フライドポテト）、シコン（チコリ）、ホワイトアスパラ、ビール（二百種類以上の銘柄）がある。キャラクターとして、マンガのTINTIN（タンタン）がある。

「フランダースの犬」はイギリス人の女性作家ウィーダがアントワープを舞台に書いた小説であるが、ほとんどのベルギー人はこの話を知らない。話をすると、「なんて残酷な物語なのだろう。」と評判はよくなかった。フランダースの犬の銅像が作られているが、日本人観光客以外はその存在も知らない。

(6) 現在の国の情勢

言語の違いをめぐる地域間の対立は続いている。石炭や鉄鋼業が栄えていた南部地域（フランス語共同体）では今は廃業がすすみ空白地帯となっている。一方、貿易やサービス業で今なお発展を続けている北部地域（オランダ語共同体）が事実上、ベルギーの経済を支えている。失業率は南部が15%に対して、北部が5%と格差は広まっている。何事にも大雑把なワロンやり方に対し、勤勉なフラマンからは「南部の社会保障までを、北部が世話をしている」という見方がある。また、社会保障の乏しいフランス語圏からオランダ語圏に移り住む住民が増えていることも話を複雑にしている。実際、テレビやラジオ、新聞といったメディアでさえ言語別になっているので自分の都合のいいことしか伝えられていない。教育制度が地域の言語に合わせて独立して進められているため、子どもが学校に適応できないことも多々ある。

対立をさらに大きくしたのが、2006年の4月1日（エイプリルフール）に、とあるテレビ局が放映した「オランダ語共同体が独立を宣言」といった冗談ニュースを本気でとらえてしまった一部の国民の間で騒ぎ出したことである。冗談ニュースの傷跡だけが生々しい現状である。

現在のベルギー首相は、先月に2度目の辞表を提出したが、国王は認めていない。今年の3月までも約半年間無政府状態ではあったが、国民は特に何もなく陽気に生活をしていた。ブリュッセル市内や近郊では、テラスや窓際に国旗を下げて「分裂反対」の意思を表明している家がたくさん目に留まる。

(7) 習慣

① 保護者責任と自己責任

ベルギーでは通常、0～14才の子どものしつけ及び全行動は、保護者の監督・責任下にある。例えば、横断歩道を渡る際に幼児と手をつながずにいて事故に遭うと保護者の責任問題となり、罰金を請求されることもある。また学校の登下校も保護者の責任でもあり、エレベーターを子どもだけで乗せない、戸外で子どもだけで遊ばせない等、日本に比べると保護者の責任範囲が広く重くなっている。

② その他

景観上の理由から、ベランダなど外から見える場所に洗濯物を干すことができない。一戸建ての場合、家の前の不整備による事故はその家の住人の責任となり、雪かきを怠ったために起きた事故などの責任を問われる。街路清掃人やゴミ収集の人、郵便配達人、アパートの管理人、現地幼稚園や学校の先生には、クリスマス頃にプレゼントをあげて感謝を示すことが習慣になっている。

2 ブラッセル日本人学校の概略

(1) 学校の特徴

1973年にブラッセル日本人学校補習校として開校し、1979年に全日制が開校して現在に至っている。最大の特徴は、同じ敷地と校舎を全日制と補習校で共有していることで、月曜日から金曜日までの教育課程を「全日制」、土曜日だけの補習授業校を「補習校」と呼んで区別をしている。職員室も2つあるが、校歌も同じで、ブラッセル日本人学校は2つの学校を指すことになる。どちらも、小学部と中学部があり職員間での研究交流を取り入れながら共存をしている。

ヨーロッパにある日本人学校は年々児童生徒数が減少している傾向であるが、ブラッセル日本人学校全日制（以下JSB）は年々増加傾向である。2004年度290人。2007年度367人。2008年度430人。教室が足りず、この3月にプレハブ校舎を増設した。（補習校の児童生徒数も年々増えており、1クラス30人を超える学年も出始めてきた。）全日制は小学部各学年2クラスで中学部各学年1クラスは維持している。児童生徒数の増加の原因は、日本企業のヨーロッパの進出拠点をブリュッセルにしているため、ベルギーの日本人の人口が年々増えている。また、JSBに通う子どもの保護者はトヨタ自動車関連企業が7割を占めており、世界のトヨタを感じることができる。その関係で、在籍する児童生徒の3割が愛知県である。

(2) 教育課程

JSBでは、学習指導要領にのっとったカリキュラムがなされている。年間授業日数を200日の確保と小学部の授業時数1000時間、中学部の授業時数1100時間を確保している。また、総合的な学習の時間として英語とフランス語の会話を学習する「外国語教育」と「国際理解教育」の推進に力を入れて取り組んでいる。

なお、時間割はベルギー現地校の生活に合わせて、水曜日は午前中授業になっている。午後は、各自が現地のスタージュ（各区で行われているスポーツ教室や音楽教室など）に通う子どもが多い。その分、小学部4年生でも他の曜日は毎日が6時間である。水曜日午後の職員は、職員会議や学部会、企画会、研修、教材研究、下見として慌しく過ごしている。

① 英仏会話学習

小学部1、2年生は、現地の人々と関わる学習が必要なので、「生活科」の授業として全員がフランス語を学ぶ。小学部



3年生から中学部3年生は、英語とフランス語のどちらかを選択する。小学部3年生までが毎日20分、小学部4年生以上が30分学習する。指導をするのは現地採用講師で、英語が4人とフランス語が3人である。学年毎に指導をしており、10人前後の習熟度別にグループで学習をしている。

② 交流学习

各学年が年に2回以上、現地校や国際学校、大学の児童生徒や学生との交流をすすめている。毎年、学校を



を変えて行う学年や同じ学校の同じ子どもたちと継続して交流する学年などスタイルは様々である。

年に1回、10月に現地学校の職員を招いて職員交流会を行っている。そこで、各学年で交流する相手校を探して交渉し、交流計画の糸口を見つけ実際に交流をすすめていくようになっていく。年々、参加していただく学校が増え、本校の職員数以上の方が参加しており、JSBに高い興味を示していることがわかる。

交流内容は互いの文化を紹介したり、数学や英語など教科を決めて交流したりする学年など、方法や内容は各学年の交流目的によって異なる。毎日学習している、会話授業の成果が生かされるときでもある。

③ 校外学習

ベルギーや周辺国には素晴らしい文化施設や史跡がたくさんあるので、発達段階に応じてこれらを見学し



たり調査したりする学習を取り入れている。また、浄水場や消防署、警察署、テレビ局、チョコレート工場、フリッツ（フライドポテト）工場、マルシェ（市場）、老人ホームなど、ベルギーの人々の生活を知ることができる社会施設の見学学習も取り入れている。また、福祉の部分では点字発祥の地がベルギーであることから、レイ・ブライユ協会を訪れてアイマスク体験や点字学習も行っている。ベルギーで働く日本人を学ぶ意味で、アイシンのオートマチックトランスミッション工場やトヨタ自動車の工場の見学も行っている。

中学部では芸術教室として、王立モネ劇場の見学とモネオーケストラを鑑賞している。モネオーケストラの音楽監督兼指揮者である、大野和土さんが日本人であることから、好意的に受け入れて下さっている。

④ 委員会とクラブ

JSBでは委員会活動を月1回と位置づけて活動している。また、小学部のクラブ活動は原則月4回を位置づけて自由参加で活動している。中学部は日本の部活動と位置づけて週2回を自由参加で行っている。教科の授業時数を確保するために、これらを課外と位置づけて7校時に行っている。

3 学校行事について

(1) ミニハイキング (小学部1～3年生)

メトロを使って近くの自然公園へ合同でハイキングに行く。たてわり班の3年生がリーダーとなって、自分たちで考えた遊びをする。

(2) 小学部サマースクール (小学部4, 5年生)

3泊4日で体育大学付属の施設に宿泊する。たてわり班10人前後で、各班には現地の指導者がつき、様々なスポーツ体験をする。種目としては、野球(日本とはルールが違う)、水泳、テニス、エスカラード(壁のぼり)、トランポリン、ローラーブレード、オリエンテーリングなどである。

(3) 中学部サマースクール (中学部1, 2年生)

3泊4日でドイツとの国境付近にあるスポーツ合宿施設に宿泊する。湖でのヨットセイリングなど自然を感じ学ぶといった内容が主となっている。

(4) 小学部修学旅行 (小学部6年生)

2泊3日で、オランダの歴史的建造物や体験学習を行う。アンネの家やチーズ市、キンデルダイクなどをまわり、デルフト焼きの絵付けを行う。

(5) 中学部修学旅行 (中学部3年生)

ドイツのベルリン近郊を周り、平和学習を主に生徒たちが計画を立てている。現地校との交流もあり、毎年出し物を張り切って考えている。

(6) 集中水泳

6月から7月にかけて、体育の時間に市内のスポーツ施設にあるプールで水泳学習を行う。日本の学校プールに比べて広く深く、大変学習しやすい環境にある。

(7) 運動会

400メートルトラックの競技場を貸し切って行っている。小、中学部のたてわり班で紅白を決めて競っている。日本と同様に個人種目や学年種目、表現運動がある。中でも、全校種目の大玉送りは、トラック全体を使って迫力がある。紅白対応リレーは小学部1年生から中学部3年生までのバトンの受け渡しで盛り上がっている。

る。

(8) 校内合唱祭

各学年が校内の吹き抜けホールを使って音楽の時間で学習してきた歌を1曲歌う。残響のよいホールは、たちまちコンサート会場となる。

(9) クリスマスキャロル

第2学期終業式が終わったあと、全員がホールに集いクリスマスの歌を歌う。また、年替わりでヨーロッパの国々のクリスマス曲を歌い、視野を広めている。一人一人がクリスマスにあったものを身に着けている。

(10) 学習発表会

各学年が体育館や教室などを使って、1年間学習してきたことを発表する。所属する学年の前後の学年を必ず参観して、感想を交換している。

(11) JSB合唱団の活動

課外活動の合唱団として、小学部3年生から6年生の希望者を対象に、合唱団の活動をしている。ネールベルト国際音楽祭への参加や地域のイベントへの出場をして現地交流を楽しんでいる。近年は合唱のレベルの高さが認められ、市からも頻繁に声がかかるようになってきた。音楽に理解ある現地の状況を子どもたちに肌で味わう機会が増えてきている。

4 私が実践したこと

(1) 学校の様子を伝える

情報教育主任を引き継いだとき、ホームページ(以下HP)の更新が煩雑であった。複数の業者による管理や言葉の面からである。また、回線がADSLのみで日本のISDNと程度の速度なので、upするのに多大な時間がかかっており、深夜にまで及んでいた。一方、保護者からは「行事やイベントが多いのですぐにその様子をHP上で見たい」という要望があり、つくば市の公立小中学校を参考にブログ形式に変えた。更新が簡単で重くないので、職員が輪番制で毎日の出来事をupアップできるようにした。その結果、保護者からはその日の出来事がすぐにわかると好評をえた。

(2) ネットワークシステムの管理

教職員一人一人にパソコンが支給されているが、一人一人がむやみに個性的に設定をしまっていたので、エラーが多かった。そこで、校内の全パソコン85台のデスクトップや機能をサーバー上で管理し、統一しエラーに対処できるようにした。日本と違い、管理会社がプリンタやネットワーク、プロバイダ、機器ごとにバラバラなので言葉の問題もあり、事務部にも協力していただき統一マニュアルを作成して対処できるようにした。

(3) 「まずはやってみる」理科の授業の実践から

私は小学部5年生を2回、3年生を1回担任した。そのなかで、理科の授業ではまだやっていない実験に対し答えだけを唱えて満足をしている子どもたちに、実験の楽しさと思考する楽しさを味わえるように工夫をしてきた。

① 何を考えているのかを「イメージマップ」で読み取る

単元の最初と最後に「イメージマップ」を子どもたちが書くことで、何をどう考えているのかを読み取れるようにした。その結果、前後の変容で評価をしたり、子どもたちの思考から授業計画を立てることができた。

② 実験方法を考える

どんな実験をすれば成果が得られるかを、教科書を見ないで考えるようにした。5年生の「川の流れのはたらき」では、放課後の砂場を使うことから、「さわらないでください」のポスター作りから始まり、水に流すものや橋の模型など教科書にはない実験器具をそろえることができた。

③ 予想をたてる

実験や観察前に必ず予想を立てて発表するようにした。ただ、発表するだけではなく、どうしてなのかという理由を必ずつけるようにした。ここでも、自分の考えを相手に伝えるということを前面に出した。クラスは20人ほどだったが、グループごとに話し合いをして緊張感をなくした。

④ 結果から考察をたてる

どうしてそうなったのかという考察を必ず考えるようにした。最初は書けなかった子どもでも、自分が予想したことと結果が反したことを追究し満足のいく考察を書けるようになった。また、考察から議論にまで発展していくこともあった。3年生の「日なたと日かげ」で白い砂の地面のほうがコンクリートより温度が低かったことから、地球温暖化は地面のコンクリートをなくせばいいのではないかという議論になったこともあった。

このようなごくあたり前の授業の流しが、子どもたちの自己表現の場を保障することで生き生きしていく姿に変えることができた。理科だけでなく、他の授業でも意見交換が見られた。特に学習発表会では、今までは劇の発表だけだったものが、各教科でプレゼンテーションやポスターセッション方式で発表できるようになり、大きな成長であると感じた。

5 JSBの様子と感じたこと

(1) 登下校

治安がよいので、スクールバスで通学する子どもは全体の1割に過ぎない。ほとんどの子どもが学校近辺に住んでおり、徒歩か保護者の車で通っている。また、12歳までは保護者と一緒でなければならないというベルギーの法律があり、小学部では子どもだけで登下校することができない。中学部からは子どもだけの通学ができるので、メトロやバスなどを使って登下校している子どもが多い。

(2) 保護者

学校に対する期待が多く、行事や体験活動よりも学力重視を望む保護者がいる反面、ベルギーにいる時でしかできない交流学習や校外学習の充実を望む保護者がいるなど多様な要求がJSBには寄せられている。授業参観や懇談会といった保護者が参加する行事でも100%の出席率が常で、学校教育に対する意欲の高さが伺える。また、保護者間の横のつながりができており、同じ企業間のつながりが強い。子ども同士の仲がよくても、親同士の仲によって、学校外で遊べないといった悩みを持つ子どもも多く複雑である。

(3) 子どもの学力と生活力

子どもたちは知識と理解に関しては申し分のないほどレベルは高い。毎年行うNRTテストの結果から見ても、全国レベルをはるかに超えており生徒指導の面で手がかかることはほとんどない。子どもたちは、2年から3年のサイクルで転入転出を繰り返しているのので、いわば全員が転出入を体験している。全体の転出入は年間100人以上で、学期の途中でも常に転出入が行われている。つまり、全員が転入生である。新しく入ってきた転入生に対する心遣いや思いやりは大変細かく、どの学年の子どもでも配慮がなされている。言葉遣いや敬語も低学年のうちからできており、改めて日本語の美しさに感動をした。一方、知識先行型の子どもが多く、思考の部分が日本の子どもに比べて劣っていると感じた。自分の考えを伝えるところが足りないように感じる。

(4) 生徒指導

校則はなく、中学部も私服である。腕時計やアクセサリ類も自由である。小中併設なので、運動会など行事も小学部1年生から中学部3年生までのたてわり班で取り組んでいる。下級生は上級生を慕っている。特に紅白の応援団長になる中学部3年生はヒーローである。下級生たちの視線が、中学生としての自覚を高めている。

6 現地教育制度

2歳から幼稚園・保育園に無償で入園できる。高校の18歳までが義務教育で、公立私立ともに無償である。また、通学区がなく好きな学校に入学することができる。人気の高い学校もあり、空きが出るまで他の学校に通い、転校するというケースも少なくない。また、学校は前

述した通りブリュッセル首都地域にはフランス語とオランダ語の学校の2種類がある。各共同体には、その地域の言語の学校がある。

視察をした公立小学校によると、1年間のカリキュラムは決まっているが単元の順番や教科書の選定は各学級担任に任されている。学年の統一というものはなく、クラスによって子どもたちは学んでいることがバラバラである。毎年学力テストがあり、どれだけ定着しているかを調査している。調査結果は、子どもには関係なく教員の指導評価に関わってくる。しかし、結果が悪かったとしても特に処分等もない。学校内でも分業があり、学級担任は授業のみで、休み時間やお昼の時間は別な専門の教員が指導をする。

中高では一貫教育制度が導入されており、中学1年生までが全員共通の内容を、中学2年生になると進路準備に取りかかる。そして、中学3年生で自分の進路のコースに分かれる。その内容は一般コース(大学進学)や芸術コース(美術・音楽など)、実科コース(ビジネス専門)、職業コース(職業訓練)である。

現地のすべての学校は水曜の午後に授業がない。JSBも唯一この部分を合わせている。そのかわり、地域ではスポーツ教室(サッカー・バスケット・乗馬・体操・水泳など)や音楽教室がある。夏休みや春休みにも、スタージュ(集中講座)といった区役所主催の芸術・文化的教室(音楽・美術など)がある。よって、現地校では体育や音楽といった技能教科の授業はない。

大学を卒業した段階でフランス語とオランダ語、ドイツ語、英語の4カ国語をだいたい話せるようになってきている。実際に英語が通じる人も多くいる。ブリュッセル自由大学は同じ敷地内にフランス語とオランダ語の2つのキャンパスがある。学部や学科はまったく同じであるが、互いに交流はないという不思議な大学である。オランダ語共同体にあるルーバン大学には、日本語学科があり、JSBでも交流をしている。アニメ人気から年々日本語学科の人气が高くなっている。

ブリュッセルには、日本人学校のように海外から来た子どもたちのための国際学校が以下のようにたくさんある。

- ・ブリティッシュスクール(イギリス系で、日本人も多く通っている。)
- ・インターナショナルスクール(アメリカ合衆国系で、日本人も多く通っている。)
- ・ヨーロッパンスクール(保護者がEU機関に勤めている子どもで、フランス語やドイツ語、スペイン語、オランダ語、イタリア語と多くのクラスがある。)
- ・スカンジナビアスクール(北欧系で国語の授

業はノルウェー語やデンマーク語、スウェーデン語で行われているが、他教科は英語かフランス語で行われている。)

- ・エコールエトワール(フランス語で星の学校という意味で、親がトルコ人の子どもが通っている。トルコ語の授業は国語だけで、他教科はフランス語で行われている。)
- ・中華学校(台湾系で、土曜日のみの補習校である。)

7 現地生活からの雑感

① 自己責任ということ(自分でやることやしたことは自分で責任をとるという考え)

街の中には自己責任という問題に絶え間なく接することができる。スーパーでは、賞味期限の切れた商品が堂々と手前に並べられていたり、中身の抜けたペットボトルがあったり、痛んだ野菜があったり、割れた卵があったりすることが当然である。しかし、これは買い物をする人が注意をして選ぶことが常識になっている。買った後クレームをつけても「確認しなかったあなたが悪い」と言われるのが落ちである。最終的に返品を受け付けてくれたが、日本のサービス業の丁寧さが変に感じた。

工事現場には、1本のナイロンテープで囲いがしてあるだけ。落ちた人が悪いという考え。まして、子どもであれば監督不十分の保護者が悪いということになる。朝、自宅前でスクールバスを待っていた子どもが、ふざけて車道に下りて車と接触した。横断歩道以外、車道に下りることがいけないことと、保護者がその場になかったということで保護者の責任であるといった具合である。日本では考えられないが、慣れてくると非常に合理的である。

また、スーパーのレジの遅さや道路や建物の工事の異常なほどの遅さ(早くて2年?)、午前中しか開かれていない役所、ナビゲーションをつけているバスなど、日本人からみればいい加減に感じられるがこれも自己責任という国民性なのかもしれない。誰一人、文句を言う人がいないことからよくわかった。

② 美しい街と人々

木々が多く、家々のレンガ色と調和しどこでも絵になる風景であった。また、動物愛護の風潮が強く、乗り物もレストランも犬であふれていた。厳しく躰けられており、そこに犬がいることすら気にならなかった。しかし、歩道のいたるところにある糞には驚いた。結局「踏んだあなたがよく注意をしていなかったから」ということになる。大木のある広い公園も多く、老若男女がゆっくりと自分の時間を過ごしている。自然が多いながら土壌がやせており、学校の畑作りでも、ジャガイモだけがよく育っていることから体感することができた。

街には車椅子などの障害を持つ人やお年寄りが街に多く見られることである。町のカフェでは昼間から老人が車椅子に座ってビールを飲んで会話を楽しんでいた。消費税21%でありながら、各種年金や福祉で老後の生活が保障されており、日本より進んでいると感じられる。

③ あいさつ

見ず知らずの人でも、目が合ったら「ボンジュール」と声をかけてくれた。信号のない横断歩道で車を止めると、必ず手を挙げてあいさつする。マニュアル通りではなく、自分の意志でされている。アパートの玄関であった見知らぬ人でも声を掛け合うということで、治安の維持にも役立っているのである。街中があいさつであふれていれば、わざわざ学校で指導することも必要もないのかもしれない。ちなみに、現地校で道徳の授業はないという。

④ 治安

目立った凶悪事件はなかったが、空き巣や車上狙いは多く発生しており、治安は日本よりはよくないようである。市内にも治安の悪い地域はあるが、日本のような殺人事件はめったにおきることはない。

⑤ ミュージックアカデミー（区の生涯学習）に加入して日本人学校の中だけでなく、居住している区が主催している生涯学習である、ミュージックアカデミーのFanfa（吹奏楽クラス）に加入し活動したことでベルギー人の生活の様子がよくわかるようになった気がした。自分自身、中学時代から吹奏楽でトランペットをふいていたので、この機会に飛び込んでみた。授業料は、週1回年間1万5千円程度で、一流の指導者がつく。日本では、一流の指導者についていただくレッスン料が1回数万単位であるが、こちらでは、区の税金から生涯学習の補助が出ているので安価に実現できている。

その他、メンバーとは練習後に曲について議論したり、また、そのままカフェに言って飲みながらプライベートな話をしたりと学校と家の往復では味わえない真の国際交流ができた。その中で、仕事よりもプライベートを優先するベルギー人の生活の豊かさを私自身うらやましくもあり見習うべきでもあると考えた。余暇を使った生涯学習に、国は責任を持って機会を広げていることがわかった。豊かな体験を年齢に関係なく、だれにでも機会を与えられているシス

テムがあることで、横つながりだけでなく、縦のつながりも自然に身につけられるのではないかと考える。日本では余暇が少なくなるばかりか、余暇をどのように過ごしたらよいかかわからなくなっているのが現状である。時間を与えるだけでなく、場も内容を幅広く提供することで、生涯学習が成り立っていくのだと考えた。

8 最後に（ヨーロッパでの生活を通して）

ベルギーの人々の印象として「生きる力」が挙げられる。その理由を考えると「表現すること」を大切にしているという感じがした。多国籍の人々がいるヨーロッパでは、違いを認め合うことが大切であり、そのために話すという自己表現で、問題解決を図っているように感じられた。日本では、常に「人からどう思われているのか」「周りがそうだから」「失敗すると恥ずかしい」といった気持ちが常に働いている。「集団の中で自分がどうなのか？」ということである。ファッションをとると、ヨーロッパに流行はない。スカートも長かろうが短かろうが自分が履きたいから履く。この色が好きだから着る。という具合である。つまり、「私がしていることは自分の問題である。他人は他人の考えであり、失敗しても自分の責任」という、決して自分勝手ではなく個人として何を考えているかということが大切にされているように感じた。これからの日本人が国際化の中で大切にすべきことは、自分に自信（うぬぼれではない）を持つことであると考えた。「自信を持つこと」とは、「できること」と「できないこと」がはっきりしている状態を示すことであり、「できる」ことは自分ですることである。その上で「できない」ことは他の助けを借りるということである。その判断は自分自身にしかできないはずである。このように築いてきたヨーロッパ社会が「EU」という共同体に表れているのではないかと考える。

日本は戦後のアメリカ合衆国の影響を受けて、訴訟社会つまり責任転嫁の風潮ができてしまっている。しかし、これからの国際化社会で、これで日本はよいのかと疑問を感じる。「欧米」という言葉があるが、俗に西洋と呼ばれている「自己責任のヨーロッパ」と「訴訟大国のアメリカ合衆国」を一つにみなすこの言葉は不適切であると考えた。

バンコク日本人学校

海外子女教育・国際理解教育実践研修会資料
在外教育施設派遣教員帰任者実践報告

茨城県つくば市立竹園東小学校
教諭 中島 明美



バンコク日本人学校全景

- 1 派遣先 泰日協会学校 (Thai-Japanese Association School)
通称；バンコク日本人学校
- 2 派遣期間 平成16年4月～平成20年3月
平成16年度 小学部1学年担任
17年度 小学部1学年主任・担任
18年度 小学部1学年主任・担任
19年度 小学部長

※小学部長の職務（小学部副部長とともに）

学校教務部会への参加

- ・参加者；校長，マネージャー，両学部教頭，教務部長，両学部長，小学部副部長，管理部長，校務部長

小学部の運営

- ・校長，教頭，中学部との連絡調整
- ・学年主任会，学部企画会，学部職員連絡会の計画と運営
- ・学年間の調整

小学部の学籍管理

- ・編入学児童の受け入れ（19年度編入学児は400名超）
（編入学相談の予約受付 → 編入学相談 → 受け入れ → 書類送付・管理）
- ・新1年生の入学（20年度入学児は約320名）
（幼稚園等への書類送付・日本人会からのお知らせ配布依頼・ホームページからの呼びかけ → 入学時健康診断の計画，準備，実施 → 入学説明会の計画，準備，実施 → 入学児童の書類一式管理 → 入学式の準備・実施）
- ・退学児童への対応（19年度は約300名）
（退学児童の把握 → の書類作成に関する連絡調整 → 退学児童の書類一式管理）

小学部及び両学部学校行事の運営と補助

- ・始業式，入学式，終業式，卒業式
- ・秋の大運動会（保護者送迎バスの運営）
- ・校外学習，宿泊を伴う学習
- ・交流学習会 等

若手教員の育成

- ・年間2回の授業研究の指導
- ・教員としての心構えの指導及びよろず相談

保護者対応

- ・担任，教科担当教員へのクレーム対応
- ・児童間のトラブルに関する保護者の話し合い仲裁
- ・小学部への質問対応
- ・配慮を要する児童の保護者への対応

保健室との連絡

- ・けがをした児童の病院への搬送判断と指示，連絡調整

その他

- ・登校時の児童のお迎え，下校時の児童の見送り
- ・お弁当を落とした児童，忘れた児童への対応 等

3 学校の概要

(1) 歴史

大正15年（1926年）盤谷日本尋常小学校として設立

昭和31年（1956年）大使館附属日本語講習会として再発足

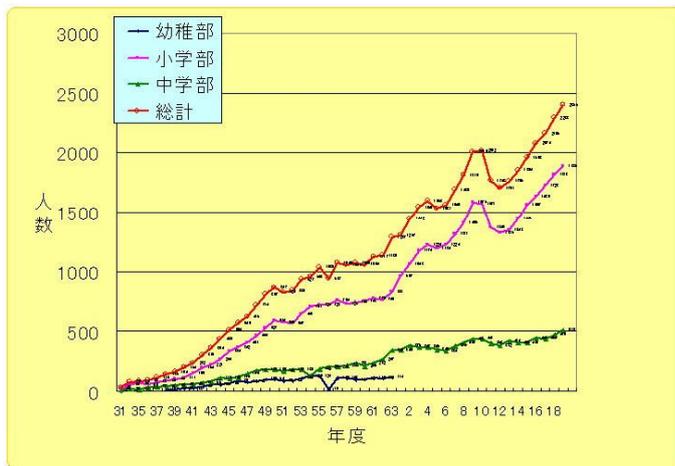
昭和49年（1974年）「泰日協会」を設置者として，タイ国学校法に基づく私立学校として認可

平成17年（2005年）創立50周年をむかえる。

- (2) 職員数及び児童・生徒数
 ○平成19年度 教職員数
 教員 111名
 英会話教員 7名
 水泳コーチ 4名
 看護師 3名
 事務職員 11名
 その他
 用務員及び警備員 数十名



17年度 創立50周年 小学部朝会



- 児童・生徒数
 (平成20年6月16日現在)
 小学部 1957名
 中学部 555名
 合計 2512名

創立からの児童・生徒数

4 校訓・教育目標・目指す学校像

(1) 校訓

広い心で 明るく なかよく たくましく

(2) 教育目標

思いやりのある子
 創造性を発揮し、積極的に学ぶ子
 心身の健康をつくる子
 国際性豊かな子

(3) 目指す学校像

- 「安心して通える・通わせられる学校」
 〈安全で快適な教育環境を提供する〉
- 「確かな学力と国際性を身に付けさせてくれる学校」
 〈在外教育施設の役割をしっかりと果たす〉

5 特色ある教育活動

(1) 土曜登校日 **十分な授業時数確保のため**

- ・小学部5年以上(月1回 年9回 年間36時間)

(2) 国語特別指導「ことば」 **確かな学力の定着を目指して**

- ・小学部1年生以上(週1時間)

(3) 音楽の専科教員配属 **情操教育の充実を図って**

- ・小学部1年から

(4) 英会話の授業 **時代の要請に応えて**

- ・小学部3年以上(週2時間 総合的な学習の時間を使って)
- ・ネイティブスピーカー(Bell Internationalに委託)による授業

- ・学年によっては少人数指導を行う
- (5) 水泳授業 **タイの気候を生かした体力づくりを目指して**
 - ・小学部1年生より (年間を通して)
 - ・タイ人コーチと担任が複数指導
- (6) タイ語授業 **タイ国文部省の規定**
 - ・小学部1年生より (週1時間)
 - ・タイ人教員の日本語による指導
- (7) 教科担任制 **中学校への円滑な進学を目指して**
 - ・小学部6年生より
 - ・5年生までは一部の教科で専任教員による指導

19年度 日タイ修好120周年記念 大運動会
小学部1・2年生による「にじのかけはし」

《番外編》 タイランド ミニ情報

- ①タイのかつての国名は「シャム (Siam)」でした。この地名はいまもバンコク中心地に残っています。
 - ②現国王ラーマ9世は国民の絶大な信頼を得ており、国内の至る所に肖像画や写真が見られます。
 - ③第2次世界大戦では、日本と同盟を結び枢軸国の一つでしたが、裏ではイギリスを中心とした連合国とも通じていました。この二重外交により戦後の敗戦国処理を免れることができました。このへんの歴史を背景にした小説に『メナムの残照』があります。タイで最も有名な日本人は、この話の主人公「こぼり」です。
 - ④アジアで他国の植民地になったことのない国は日本とタイのみです。
 - ⑤最も人気の数字は「9 (ガウと読みます)」。 「ガウ」には“発展する”という意味もあるそうです。あなたが街で見たベンツに、もし「9999」のナンバープレートが付いていれば、そのベンツはベンツ2台分の値段だそうです。(タイでは、高いお金を出さなければ人気のナンバープレートを買うことができません。)
 - ⑥タイでは、お年寄り大切にされます。両親や医者・教師を敬うこともあたりまえのことです。昔の日本のようだという人もいます。
 - ⑦タイ人を知る4つの言葉…サバーイ (元気だ, 快適だ) サヌーク (楽しい)
サドゥアック (便利だ) マイペンライ (たいしたことない)
- ☆もしバンコクへ行かれましたら…
オリエンタルホテルのチャオプラヤー川沿いのテラス席で、行き交う船と夕日を眺めながら、タイのビールを飲まれることをおすすめします！

関東ブロック研究協議会で発表される先生の実稿

関東ブロック研究協議会は、8月23日（土）にJICA横浜を会場にして開催されました。テーマは、「新たなる国際化へのチャレンジ」です。本県からは、和田先生が、午後の実践事例発表会の第1分科会「海外・帰国児童生徒教育」で、「カイロ日本人学校における国際交流の取り組み」について発表されました。ここに、その原稿を掲載いたします。

「カイロ日本人学校における国際交流の取り組み」 －近隣校、大学生との交流行事を通して－

茨城県 ひたちなか市立勝田第一中学校 教諭 和田 尚志
(平成16年度～平成18年度文部科学省派遣)

1 カイロ日本人学校の概要

カイロ日本人学校は、在エジプト日本国大使館付属の学校として誕生したが、現在は、組織上、カイロ日本人会が運営している。学校は、ナイル川が流れるカイロ市の中心から車で30分のところにある。ピラミッドを眺める校舎では、エジプトを日々感じながら学校生活を送ることができる。私が勤務していた2006年度は、在籍数が小学部・中学部あわせて40名前後で推移していた。



2 カイロ日本人学校の国際交流の取り組み

カイロ日本人学校では、「人間尊重を基盤に、相互理解のために必要なコミュニケーション能力や自己表現する力、さらに他者とのかかわりを通して、自分の考え方・行動の仕方を柔軟に変えていくことができる自己決定力や自己修正力の育成」という国際理解教育のねらいのもと、近隣の学校や日本語を学習しているカイロ大学日本語学科の学生との交流を行っている。本校小学部では、週2時間、中学部でも正規の3時間の英語の授業以外に英語活動の時間を設けている。現地の公用語であるアラビア語の学習は、2005年度まで行っ

てきたが、2006年度からは、必要に応じて総合的な学習の時間に行うこととなった。

(1) 活動の実際

① 近隣校との交流

本校と交流を行っているエル・アルスン校は、本校から車で10分程度のところにある幼稚園から高校まで併設する学校である。学校に通う生徒のほとんどはエジプト人であるが、授業はすべて英語で行っている。大規模な学校のため、年に数回ある日本人学校との交流においては、毎回選抜された児童生徒のみが参加するかたちとなっている。エル・アルスン校との交流会は、運動会、学習発表会、エル・アルスン校における授業交流(小学部のみ)、カイロ日本人学校における交流会(小中参加)の年4回である。交流の時期は、エジプトの学校とカイロ日本人学校の年間スケジュールが違うことや、ラマダン(断食)などのイスラム教の宗教的な理由から時期を固定できず、年度当初に両校の担当者同士で打ち合わせをして決定している。

ア 運動会

本校の運動会は日本人会との共催で毎年行われている。本校は、児童生徒数40人前後のため、交流校の児童生徒には、徒競走・短距離走で本校生徒と競い合ってもらったり、玉入れに参加してもらっている。児童生徒にとっては、得点には関係ないものの、交流校の児童生徒には負けないという競い合いの気持ちをもって、競技することができる機会となっている。昨年度からは、交流校対本校の綱引きも行われ、交流を深める一方で、本

校児童生徒がカイロ日本人学校としての一体感を味わう場面にもなっている。

イ 学習発表会

交流校の代表児童生徒を招待し、本校の歌や演奏、学習したことの発表やドラマを鑑賞してもらっている。また、エル・アルスン校の代表児童生徒に音楽やダンス等の発表をしてもらっている。

ウ 交流授業（エル・アルスン校にて）

エル・アルスン校の通常の授業に参加させてもらっている。2年前までは、中学部も交流を行っていたが、前年度の行事の反省で、相手校のとの意識のずれがあったので、中学部は授業交流を行わないこととした。小学部での交流では、授業を英語で行うため、数学や理科等の教科学習ではなく、体育、音楽、家庭、美術等の技能教科が中心である。交流校も授業を進めなくてはならないという切迫感もあり、セレモニー等もなく、単に授業に参加する形態となっている。これは交流に対する両校の考え方の違いや、温度差も影響していると考えられる。参加した児童生徒の感想では、「一緒にゲーム（鬼ごっこやドッチボール）をして楽しかった。」「先生の話す英語を理解して、作品作りに取り組めた。」「準備していった曲を披露でき、そして拍手をしてもらえてよかった。」などという違う環境や多人数で取り組むことへの喜びを感じられるものがあつた。

エ 交流行事（カイロ日本人学校にて）

交流行事では、小学部・中学部と分けてねらいを設定した。小学部では、「アルスン校との児童生徒と交流することにより、外国人への抵抗感をなくし、親しんでいこうとする心情や態度を育てる。今後とも付き合える友人を作る。協力して、大きなものを作ることで、交流校の生徒とも達成感を成就できるようにする。」というねらい、中学部では、「交流活動を通して、アルスン校との児童・生徒と親睦を深め、今後とも付き合える友人を作る。活動を通して、自然にコミュニケーションできる資質を育む。普段学習している英語でコミュニケーション行うことにより、自分自身でこれまでの学習をふり返る。協力して、大きなものを作ることで、交流校の生徒とも達成感を成就できるようにする。」とした。昨年度は、児童生徒に多人数で大きなものを協力して作る場を設定し、交流校も含めた全児童生徒で成就感・一体感を味わおうというねらいのもと、中庭でペットボトルを使つての

モザイク画作りを行つた。当日はモザイク画も見事にできあがり、ねらい通りの達成感も得ることができた。2006年度は、可能な限り児童・生徒に企画にかかわらせ、自分たちの行事という意識を持たせたいという考えがあつたので、実行委員会を立ち上げ、小学4年生以上の児童生徒を各クラス一人以上出してもらい企画・準備や役割等の準備を行つた。話し合う、準備をするといつても、スクールバスの時間などの制約もあり、十分な時間を確保ができないのが現状であつた。そんななかでも子供たちは、昼休みや放課後の時間を使いドミノの図案や仕掛けを考えたり、交流会でのオープニング・アクティビティーを考えたりした。ドミノ制作では、全校児童生徒で事前に準備した2つ一組のペットボトルドミノを体育館のフロアーに両校の児童生徒で並べていく作業や、ステージ上から倒れていく様子を一緒に見ることで一体感・達成感を感じることができた。実行委員として、司会を担当した生徒、各ゲームでデモンストレーションを担当した児童生徒、図案を考えたり、仕掛けを準備したりした生徒は、全校生徒の前で実行委員としてそれぞれの感想を交流会の後で述べた。頑張つたという感想が多く、全校児童生徒から労いの大きな拍手をもらうことができた。

② カイロ大学との交流

カイロ大学文学部日本語学科では、日本の文学等を通じて日本語の習得を目指した学科である。日本から派遣されている教員も常駐しており、その先生に窓口になっていただき、交流を行つてゐる。運動会や日本文化を紹介するジャパンデーの行事で交流をしている。

ア 運動会・学習発表会

運動会では、主に日本人会の種目である玉入れや綱引きに参加してもらっている。本校の生徒とのかかわりでは、フォークダンスや交流セレモニーのみであるが、日本語を話せる学生が多く、種目の合間をぬって、本校の子供たちと話をしたりという交流が見られる。学習発表会では、エル・アルスン校同様、本校の発表の鑑賞が主である。カイロ大学の学生には、ここ数年、日本への留学経験のスピーチをもらっている。エジプト人からみた日本という観点で、我々が当たり前に思っていることを彼らの切り口で語ってくれている。児童生徒はもとより、参観に来ている保護者からの反響も多く、

考えさせられることや日本の良さを再確認できる場となっている。

イ ジャパンデー

日本の文化にふれる日がジャパンデーである。ブロックごとに分かれて、日本のメンコやはねつきなどの伝承遊びや習字、紙芝居の紹介、そして中学部では、現代日本文化の紹介等を行っている。カイロ大学の学生との交流での最大のメリットは、彼らが日本語を話し日本に興味を持っているということである。難しい内容でも通訳を介さず、自由に相手に自分の意見を言うことができるのは、十分でないアラビア語や英語でのコミュニケーションに比べれば、はるかにすっきりしたものである。本校には、普段接する、または垣間見るエジプト人の生活や行動になぜという疑問やおかしいと思ったり、日本ではあり得ないなどと感じ、エジプト人に対してマイナスのイメージをもってしまっている児童生徒がいる。そんな思いを直接相手に聞いたり、こうしてみてもなどとアドバイスしたりすることで、より親近感をもってエジプト人に接することができるようになればと思っている。見た目のイメージからは察することができないエジプト人のメンタリティーを知る上でも、現地理解に大いに役立っていると感じる。

ウ 授業見学会

授業見学会は、カイロ大学日本語学科の授業を本校の中学部の生徒が見学するものである。昨年度から本格的にカイロ大学の協力を得て実施することができた。日本人の先生による音声学の授業とエジプト人の先生による漢字の授業を見学した。普段何気なく発音している日本語がどのようにして外国人に教えられているのか、また漢字を1週間で40個のペースで覚えなければいけない学生たちの学習環境など、参考になることや刺激になることが多かった。学生の多くが運動会やジャパンデーで既に面識のある人で、年の違いはあるが友達と再会できたとい

うような感情を生徒が持てたのはよかった。そういった和やかな雰囲気の中で、日本やエジプトという共通の話題で盛り上がることもできた。

3 成果と課題

成果として、国際交流のプログラムを通じて、エジプトの文化と日本の文化を比較してよさを見つけようとする意識が育ってきた。また、エジプト人と気軽に会話をするできるようになってきたことがあげられる。課題は、児童の海外生活の経験の差が大きく、英語の授業を一斉にすることが難しいことやアラビア語より英語学習を望む保護者が多く、保護者の意識が子供に反映し、交流しようとする意欲に差があることである。また、交流校の学級規模を考慮したり、公立学校との交流には複雑な手続きが必要であることなどクリアしなければいけない課題はたくさんある。しかし、今後も前校長が提唱した「児童生徒がお互いに友達になれるような身近な交流」を目指して欲しいと願っている。

4 おわりに

私は、今回のカイロ日本人学校での勤務にあたり、以前勤務された先生方が積み上げてきた実績と築きあげてきた人脈を最大限に生かしながらも、現在の学校環境や児童生徒のニーズやねらいに迫る国際交流をしたいと考え、取り組んできた。国際理解教育・国際交流を担当した3年間を振り返ってみると、いくつかのマイナーチェンジには手をつけることができた。しかし、3年間という短い赴任期間のなかで、現地の状況や学校環境を踏まえて何ができるかを考えて取り組んでいくのは、簡単なことではないと感じた。社会状況や児童生徒のニーズを踏まえ、児童生徒につけさせたい力を普段から意識しておかなければならないという思いを強くした。

在外教育施設派遣セミナー-派遣希望者に求められるもの-

在外教育施設教師を目指すあなたに

大洗町立祝町小学校 校長 長山 正宏

はじめに

- 何のために派遣を目指しますか。 → 在外教育施設での職務意識
 - 何をしに海外へ行きますか。 → 当地での周囲の目にどう映るか
 - 何ができるとおもいますか。 → 勤務への志
 - 自分の資質能力はそれにはなっていますか。 → 適性
- 自分が行きたい** だけで行くと、子どもが被害者になる → 保護者は黙っていない

1. 在外教育施設とは

- 全日制日本人学校 国が国内の学校と同等に認可した施設
- 補習授業校 通常は現地校やインター校に通学する子どもが、週末の短時間、一部教科を学習する施設
- 準全日制学校 上記学校の中間的施設
(以上が政府が援助している学校だが、他にも学校法人が運営する私立学校もある。)
※設立は在留保護者。政府からの援助はあるが、基本的には私立学校

2. 派遣に先立ち必要なもの

やる気と元気、健康と覚悟
費用(数百万円) 在勤手当が入金されるのが6月。それまでの生活費や住宅費
※額は様々

3. 派遣後に注意すること

日本の常識は世界の非常識

茨城の常識は現地職場での非常識

・周囲の声に耳を傾ける余裕
・より高度な協調性

- ・小・中学部を合わせて児童生徒数が2,000名を超える日本小学校もある。当然、教職員数もそれに比例した数。教員も子どもも日本国中から集まってくる。
- ・小規模校では、責任も人間関係も濃厚。
- ・職場ではもちろん、私生活でも数えきれない視線がある。家族の管理も仕事のうち。
- ・普通に仕事をこなす、必要以上に飾らない
- ・「はじめに」に書いたことを忘れずに。自分への宝物は後からついてくる。

4. 派遣中にすべきこと まずは校務を確実にこなす

- ・派遣国をたっぷり見聞する。それが礼儀。
- ・その後、近隣諸国を見てまわる。

5. そこは外国

- ・自分の身は自分で守る。家庭、心身の健康、安全、財産… etc.
- ・現地語習得は、自分を豊かにする。

海外子女教育財団

文部科学省海外子女関連サイト

<http://www.joes.or.jp> , http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm

あ と が き

ここに、2008年度の広報誌を第1号をお届けします。
日々の雑務に追われ、海外での生活が遠い記憶の彼方に去りつつある私にとって、この広報誌と毎月送られてくる「JICA MONTHLY」が私と海外を結ぶ接点です。この広報誌が、帰国された先生方には海外との接点に、そして在外教育施設に派遣されている先生方には、日本との接点になってくれればいいなと感じながら編集しました。
広報誌は、下記のホームページアドレスでもご覧いただけるようになりました。興味のある方は、ご覧下さい。ホームページアドレス <http://www.zenkaiken.net/~ibaragi/>
今後も「茨城県海外子女教育・国際理解教育研究会広報誌」をよりよいものにしていきたいと思しますので、広報誌に関するご意見がございましたら、広報・研修担当役員まで遠慮なくご連絡ください。なお、Eメールでのご意見は、下記のメールアドレスまでお寄せ下さい。
Eメールアドレス (kouhouibakai@yahoo.co.jp) (文責 河嶋)